



見直し摘果マン

りんご生産情報第9号  
(8月8日～8月28日)

令和6年8月7日発表  
青森県「農林水産力」強化本部

**良品生産に向け、見直し摘果の徹底を！**  
**つがるの落果防止剤（ストッポール液剤）の散布は8月15日頃！！**  
**日焼けや風害・鳥害の防止対策を万全に!!!**

## I 概要

8月1日現在の果実肥大は、各品種とも平年を上回っている。

今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病虫害被害果、さび果等を主体に見直し摘果を徹底する。

つがるの落果防止剤（ストッポール液剤）の散布は、8月15日頃に行う。

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月11～12日頃、「8月末」の薬剤散布は8月26～27日頃を実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

ハダニ類の発生が見られているので、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。

気温が高くなる日が続くので、徒長枝整理や支柱入れ、枝吊り等の際は果実の日焼けを起こさないよう注意する。

台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害防止対策をしっかりと行う。

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

## II りんご生産情報

### 1 果実肥大、作業の進み、病害虫の動き

#### (1) 果実肥大

各品種とも平年を上回っている。

#### ○果実肥大

(8月1日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	7.6	7.5	6.6
	平 年	7.1	7.0	6.2
	前 年	7.8	7.5	6.9
	平年比	107	107	106
青森市浪岡北中野 (東青地域県民局)	本 年	7.7	—	7.1
	平 年	7.1	—	6.0
	前 年	7.5	—	6.3
	平年比	108	—	118
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.3	7.1	7.0
	平 年	7.3	6.8	6.1
	前 年	8.1	7.1	6.8
	平年比	114	104	115
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	7.7	—	7.3
	平 年	7.2	—	6.1
	前 年	7.8	—	7.4
	平年比	107	—	120
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.1	6.9	7.0
	平 年	7.1	6.6	6.0
	前 年	8.2	7.3	6.8
	平年比	114	105	117

注) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

#### (2) つがるの果実熟度

8月5日現在、黒石では平年と比較して、糖度は同程度、硬度はやや低く、酸度、ヨード反応及び着色指数は低い。総合的に見て、熟度は平年よりも進んでいると見込まれる。

#### ○つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：8月5日)

地 域	年	果重 (g)	着色 指数	硬度 (ポント)	糖度 (brix%)	酸度 (g/100ml)	ヨード 反応
黒 石 (りんご研究所)	本年	200	0.1	17.5	10.4	0.302	4.8
	平年	175	0.3	18.0	10.4	0.376	5.0
	前年	205	0.1	16.1	10.0	0.310	4.8

注1 調査系統：普通系

2 平年：2002年～2020年の19か年平均

3 着色指数：0～5 (大きい数値ほど着色良好)

4 ヨード反応：ヨードデンプン反応指数0～5  
(小さい数値ほどでんぷんが少ない)

(3) 作業等の進み (8月5日現在)

見直し摘果、徒長枝整理や支柱入れが行われている。

(4) 病害虫の動き

(8月5日現在 りんご研究所)

斑点落葉病	感染継続中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率 (スターキング) (8月5日 本年: 14.9%、平年: 8.9%)
褐斑病	感染継続中
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	平年の第1世代成虫の羽化初発日は7月29日、 50%日は8月26日 第1世代蛹～成虫主体
モモシクイガ	第1世代成虫の羽化・産卵継続中
ナシヒメシクイ	平年の第2世代成虫の羽化初発日は7月23日、 50%日は8月27日 第2世代成虫主体
キンモンホソガ	第3世代幼虫主体
クワコナカイガラムシ	第1世代幼虫主体

※本年は、調査園地にコンフューザーRを設置したため、例年と同じ条件で調査が出来ないことから、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシクイについては平年値のみ示した。

2 作業の重点

(1) 見直し摘果

着果量が多いと、翌年産の花芽形成などに悪影響を及ぼすので、今一度着果量を点検し、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病害虫被害果、さび果等を主体に摘み取る。

(2) 恋空の収穫

着色を待ちすぎて収穫が遅れると、果肉の軟化につながるなので、果肉の硬さを確認し、適期に収穫する。

山選果に当たっては、変形果や日焼け果、病害虫被害果などを取り除き、出荷先の基準により選別・出荷する。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化など品質の劣化が早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

(3) 徒長枝整理、支柱入れ、枝吊り

樹冠内部に十分日光を入れ、葉液の到達をよくするために、不要な徒長枝を切り取る。果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので支柱入れや枝吊りを行う。黄色品種でも行い品質向上に努める。

気温が高くなる日が続くので、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

(4) 収穫前落果防止剤の使用

ア ストップール液剤 (1,000倍、展着剤不要)

未希ライフときおうでは8月10日頃、つがるでは8月15日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は350~400ℓとする。

ストップール液剤は葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにする。葉摘みは散布4~5日後から始める。散布後7日間は収穫できないので注意する。

2回散布や早出しを目的とした極端な早期散布、着色促進剤との併用などは、果肉の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によっては裂果やつる元の腐敗が発生するので、絶対に行わない。

イ ヒオモン水溶剤 (2,000倍、展着剤不要)

きおうでは8月10日頃、つがるでは8月20日頃に単用散布する。使用回数は1回、10a当たり散布量は300~600ℓとする。

葉液が葉先から滴り始める程度に、樹全体に丁寧に散布する。葉摘みは散布当日から始めてもよい。散布後4日間は収穫できないので注意する。

ヒオモン水溶剤を使用した果実の熟度の進みや日持ちは、無処理の果実と同等である。

(5) つがるの着色手入れ

高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないよう注意する。

つがるは果面温度の上昇や直射日光により日焼け果が発生しやすいので、早からの強い葉摘みは控える。葉摘みはある程度着色した頃から始め、収穫までに2回程度に分けて行う。着色を待ちすぎて収穫が遅れると、軟質化など品質低下につながるので注意する。

(6) 日焼け対策

日焼け果の発生を軽減するため、遮光資材(遮光率10~20%程度)を樹上に被覆する。8月以降の被覆であれば果実品質に与える影響は少ない。

(7) 「8月半ば」、「8月末」の薬剤散布

「8月半ば」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月11~12日頃に実施する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月26~27日頃に実施する。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むら

生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。  
また、シンクイムシ類防除剤も使用する。

「8月半ば」、「8月末」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前	「8月半ば」 8月11～12日頃	アリエッティC水和剤 800倍 又はダイパワー水和剤 1,000倍 又はベフラン液剤25 1,500倍	500ℓ
三戸	「8月末」 8月26～27日頃	アリエッティC水和剤 800倍 又はダイパワー水和剤 1,000倍 又はベフラン液剤25 1,500倍	500ℓ

炭疽病の発生が多い園地では、ベフラン液剤25を選択し、オーソサイド水和剤80の800倍も散布する。

アリエッティC水和剤及びベフラン液剤25は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

#### (8) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシシンAL水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

#### (9) 腐らん病対策

本年も発生が目立っている。

摘果後のつる（果柄）から侵入・感染するので、果台につるが残らないようにする。

夏場でも降雨により未処置病斑から孢子が飛散し、来年以降の発生につながる。

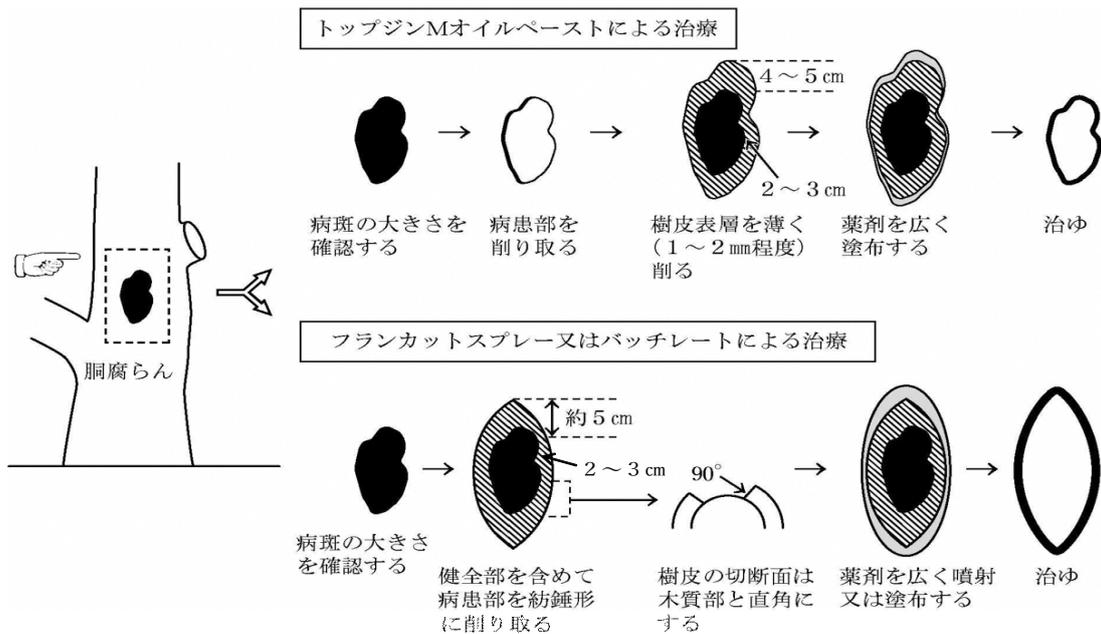
枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、再発病斑も含め、見つけ次第、直ちに以下のいずれかの処置を行う。

ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による洞腐らん治療の作業手順

(10) 褐斑病対策

一部園地で発生が見られている。自園地の状況を確認し、被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。



図1 褐斑病の被害葉

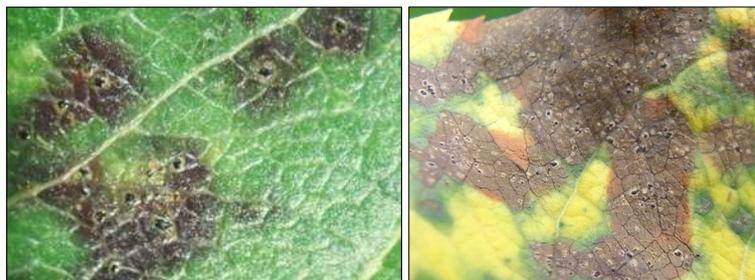


図2 病斑上に虫糞状の黒い粒（分生子堆）を生じる

提供：（地独）青森県産業技術センターりんご研究所（図1、図2）

(11) 黒星病対策

一部園地で発生が見られている。自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(12) 炭疽病対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。  
伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

(13) ハダニ類対策

発生状況に応じて適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上ある

いは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは合わせて年1回の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	×
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイトフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

注) ○：効果が高い、×：効果が低い

(14) シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

(15) ハマキムシ対策

8月以降、発生が多い場合は果実に接触している葉を早めに摘み取る。

(16) クワコナカイガラムシ対策

発生が多い園地では、8月上旬（前回散布の10日後頃）に有機リン剤の防除剤による胴木洗いを行う。また、8月中旬（成虫の産卵前）にバンド巻きを行う。

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(17) アブラムシ類対策

発生の多い園地では、ウララDF4,000倍、キラップフロアブル4,000倍、トランスフォームフロアブル4,000倍、コルト顆粒水和剤6,000倍、バリアード顆粒水和剤4,000倍、ダントツ水溶剤4,000倍、モスピラン顆粒水溶剤4,000倍のいずれか

も使用する。

(18) マメコバチの巣箱の回収

本年はマメコバチの少ない園地が多くみられているので、増殖を図るため適正な飼養管理に努める。

ア 巣箱の管理

マメコバチの巣箱を回収していない園地では、すみやかに巣箱を回収し、直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

イ 巣筒の更新

巣筒を何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、巣筒を更新する。

(19) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(20) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリポー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水100ℓ当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(21) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水100ℓ当たり使用量（倍数）
グリーントップ	16%	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,400 g（71倍）

(22) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットが発生しやすいのでカ

ルシウム剤の果面散布を丁寧に行う。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

#### カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水1000当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200mℓ (500倍)	5

#### (23) 風害防止対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

#### (24) 鳥害防止対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35mm以下とする。

イ 釣り糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合1m以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ ディストレスコールを利用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

### 3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 極早生品種の収穫 (3) 早生品種の着色手入れ

### 4 今後の作業（8月29日～9月13日）

- (1) 樹上選果 (2) 早生品種の収穫 (3) 薬剤散布  
(4) すず斑病・すず点病対策 (5) 中生品種の着色手入れ (6) 風害防止対策  
(7) 鳥害防止対策 (8) 草刈り

青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 熱中症予防運動展開中！（6月～8月） 》

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

詳しくは、こちらをご覧ください。

・熱中症予防運動 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8811>)



《 ツキノワグマ出没警報発令中！ 》

ツキノワグマ出没警報発令中です。農作業は、1人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

《 環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう 》

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。

申請・お問い合わせは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。

[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori\\_kihontekinakeikaku.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html)

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないように願います。

《 青森県総合防除計画 》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講じることです。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象として、りんご「モモシンクイガ」を設定しているため、適切な防除に努めましょう。

※県は、モモシンクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシンクイガ」の遵守事項（一部要約）

(1) 予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信攪乱剤の設置や袋かけを行う

(2) 判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う



詳しくはこちらをご覧ください。

・青森県総合防除計画 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>)

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 りんご研究所参観デーのお知らせ 》

黒石会場（りんご研究所）：9月5日（木）

五戸会場（りんご研究所県南果樹部）：9月13日（金）

※研究成果について、講演会やポスターによる展示などがあります。

※詳しくは、りんご研究所「イベント情報」

(<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2024070400025/>)



---

農作業安全を心がけましょう！

---

次回の発行は令和6年8月28日（水）の予定です。